事業所訪問

# こんにちは健保組合です！

――銚子通運㈱の巻――

健康について熱く語る大内社長(右)と大里副社長

平成三年四月号（「トラック健保」No.一七）に初めてこの企画を掲載して以来、回を重ねること一九回、そして記念すべき第二〇回目の事業所としてお邪魔することとなったのは、銚子市に所在する銚子通運㈱でした。

皆さんご承知のとおり、同社はわが健康保険組合の理事長を務める大内恭平氏が社長として経営を担っておられる事業所です。

取材の対象事業所として取り上げられることに大内理事長は、「他社を優先して！」と遠慮されておりましたが、事務局と健康管理事業等推進委員会指導宣伝部会からのたっての要望で、実現に漕ぎ着けました（このようないきさつがあったことから、理事長は、この日の取材も「一事業主として応じます」とおっしゃいました）。

## 検診受診率ほぼ一〇〇％、無災害五〇〇日を達成

一年間が駆け足のごとく過ぎてしまい、とうとう師が走り出してしまう月に突入して間もなくの十二月五日、私たち事務局は本日の取材にご多用のなかご同行いただく、指導宣伝部会の浪川座長の事業所を経由して目的地に向かうこととなりました。

不思議なことにこの企画の取材に向かう日は、好天に恵まれることが多く、この日も陽光がキラキラと降り注ぐなか、千葉の最東端、灯台と黒潮と海の幸の街、銚子へと車を走らせました（忘れてはいけません、カッパ村もあるのですよ）。

目的地の銚子通運㈱に到着して驚いたことがありました。広々とした同社の敷地内にはゴミがひとつも見当たりません。これは、後の取材のなかで納得することができました。

社屋は、一階部分が銚子営業所として現業部門のイニシアティブをとっており、二階部分が経営戦略を練る本社機能を有しておりました。私たちは二階に上がり、「こんにちは健保組合です！」とご挨拶申し上げ、社長室に案内していただきました。

間もなくして、大内社長が入室され、いつものスマイルで「ようこそ！」と私たちを迎えてくださいました。そして大里副社長、本谷専務が加わり、いつものようにフリートーキングで取材が始まりました。

最初は健康管理、労務管理に関することが話題となり、大内社長から、同社は毎年一〇数名の健康者の被表彰者が出ることからもわかるように、従業員の健康管理は十分行われており、ほぼ一〇〇％の検診受診率で、そのフォローも嘱託医をおもちとのお話がありました。

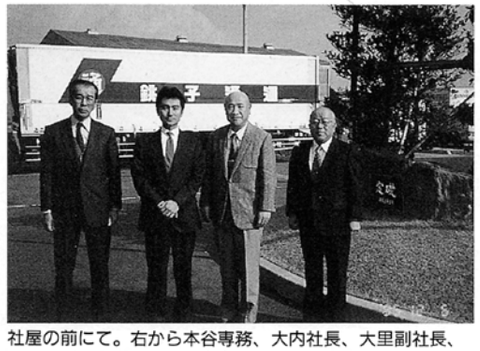
交通事故、荷物事故、労災事故といった三事故を徹底して追放すべく各職場において逐次ミーティングを開催し、末端にまで浸透するよう各管理者に徹底され、お聞きすれば、五〇〇日の無災害ということから労働基準協会から表彰されるとのことでした。

## 「健康は環境の整備から」をモットーに

さらに、この話題が進展しました（ここで冒頭に書いたことが明らかになりました）。そして本谷専務からこんな言葉が飛び出しました「健康は環境の整備から」。

この言葉をモットーに、環境美化には相当の入れ込みようが感じられました。社の敷地内は毎日働く場所なのだから、自分の家と同様、常にきれいにするのが当たり前、煙草のポイ捨てをしようものなら専務から雷が落ちます。強風の後に、ゴミが散在していようものなら、すぐに職員を呼びつけ掃除をさせるのだそうです。

つまり、身の回りの小さなことを積み重ねることにより、社会への奉仕の精神を身につけ、自分自身で何事も的確な判断ができるようになってほしいといったことを、環境美化を通して教育しておられるようでした。そのためには、自らが憎まれ役を買って出るとおっしゃいました。これらがひいては災害防止につながり、健康管理に寄与するとのこと。最近では、進んで構内の清掃をされていた社員がいたので、名前を呼んで褒められたそうです。専務の教育が徐々に実を結び、怖い(?)専務に褒められた社員の方は、さぞうれしかったのではないでしょうか。


社屋の前にて。右から本谷専務、大内社長、大里副社長、浪川座長[北総通運㈱]

談話中、浪川座長からの発言のなかにもありましたが、一般的にこの業界は、殺伐とした環境下で業務をしがちなもの。そのなかで、きれいで緑豊かな職場環境をつくることも、生産性を高めるための経営者の使命であることは間違いないでしょう。

## 経営陣が率先して健康増進を実行

その後、大里副社長から健康増進のお話があり、ご自身もスポーツマンでいらっしゃるうえに、会社としてもスポーツクラブと法人契約をされており、従業員の方々が利用できる場を提供しておられるとのこと。また、約一〇〇名以上が参加するソフトボール大会を恒例年中行事として企画しておられ、好評を博しているとのことでした。また大内社長、本谷専務はウオーキングを励行され、大里副社長は、スポーツクラブに通っておられるとお聞きし、経営陣が健康増進を率先して実行されておられるようでした。

このように、健康管理、労務管理、さらには一歩進んで健康増進にまで踏み込んで経営の一環と考えておられる姿勢は、「さすが理事長の事業所だ！」と思わざるを得ませんでした。

話題は尽きませんでしたが、最後に、銚子通運㈱の歴史についてお聞きしました。

社長室での取材風景

同社は、前身である銚子運送店として明治三〇年に創業とのこと。そして会社組織としたのが、昭和二年であり、あと二年後には創業一〇〇周年、会社組織として七〇周年の記念すべき年が重なるのだそうです。かつては、鉄道貨物の取扱い、貨車積卸し、集配業を行い、海匝香取地区の農産物と、銚子港に水揚げされる水産物を主要取扱い貨物としておられたそうですが、現在では、時代の変遷とともに主たる流通ルートが陸送に移行したため一般配送貨物、宅配便等が主流となってきたようでした。さらに、不動産賃貸業等も手掛けられ、多角経営を目指し邁進しておられるとのことでした。

こうして、和やかなムードのなかで進められた取材にピリオドを打ちました。

今回の取材は、経営陣の方々の精力的な姿勢が印象的で、平成五年に落成されたこの新社屋をキーステーションに、銚子の老舗（しにせ）として温故知新のスタンスで銚子通運㈱はますます発展されることでしょう。

取材にご協力いただきました皆さん、年末のお忙しいなかありがとうございました。

＊

さあ、読者の皆さん、年が明けると二一世紀まであとわずかです。

皆さんが経験しようとしている世紀末は、同じ世紀末でも千年に一度のグランド世紀末なのですよ。何か、宇宙的な感じがしませんか。それを感じながら一九九六年を素敵な年にしてください。